

軍隊や応援団ではない!!

『おおきな声での唱和』を強要するな!

東仕両の仕業・申告班では、1月24日の始業点から安全当番がリーダーとなり、壁に掲示してある断路器表示器の写真に向かって「〇番線断路器切ヨシ!」と大声で唱和することが強要されています。

その際、管理者は声が小さいと判断すると「やり直し!」として2~3回も唱和を強要されるのです。その声の大きさは点呼場の隣の詰所にも響きわたるほどで異常な光景です。

社員からは「まるで軍隊だ!」「出勤するのが憂鬱だ!」と怒りに満ちた声があがっています。

この唱和を行うにあたって東仕両管理者は「検修連絡」を発行しました。そこには「ヒューマンエラー防止のため」「大きな声で行う」と記載されています。管理者がいくら「ヒューマンエラー防止!」「大きな声を出せ!」とヒステリックに叫んでも事故は無くならないでしょう。なぜなら、そこにあるのは「命令と服従」の関係だけだからです。

声が小さいと「やり直し!」

それってパワーハラじゃないの?!

そもそも作業中の喚呼などは、自分の為に、自分への意識付けとして行うものです。本人が意識できれば十分なのです。また、声の大きさは人によって千差万別です。管理者から大きな声を出すように強要され、管理者が満足しなければ何度でもやり直させるという行為は、パワーハラスメントそのものではないでしょうか?!

昨年1月、米原駅で21歳の若き社員が出勤時刻の20分前に出勤したことを「出勤遅延未遂」とされ、管理者から報告書を求められるなど、必要以上にとがめられた末に自ら命を絶ちました。

私たちの職場でも同じように出勤遅延をしていないのに管理者から「お前なんかやめちまえ!」と怒鳴られた社員がいます。管理者が怒鳴ることはあきらかにパワーハラスメントです。

他労組の皆さん! 何もしなければ『異常と思える光景も当たり前』となってしまう! 明るく働きやすい職場をつくるため共に闘いましょう!